

## 「イマナカシナ」について

「イマナカシナ」は、マダガスカルMadagascarの ONE (Office National pour l'Environnement) が環境教育を目的に作製し、マダガスカルで広く提供している子どものためのフィルムです。ここでは話の概要を日本の子どもにもわかりやすいと思われる程度にご紹介します。なお「一本の小さな木を植えれば、年をとったときに自分の木陰ができる」というのは、マダガスカルでしばしば聞くことわざです。

\*\*\*\*\*

マダガスカルあるところに美しい緑の山があり、そのふもとに村があった。村人は野菜やお米を作り、森で狩をしたり、きれいな川で魚を捕まえたりして暮らしていた。小さな村だけれど、すばらしい生活だった。

ここに、ひとり、それをうらやましがっている男がいた。なまけもので、それはそれは、悪い男だった。男は考えた。

「あくせく小さな畑畑でも働いても疲れるばかりだ。もうこんな、ちっぽけな畑畑で働くのはやめようじゃないか。このあたりの森の木をぜんぶ、村人に切らせよう。それを売れば大もうけだ。そうして、森のあったところはぜんぶ、俺のものになる。」

男は村人を脅かして、木を切らせた。村人は男が怖くて木を切った。それさえすめば、男はいなくなると思ったのだ。

翌年、森はすっかり姿を消した。暑くて、暑くて、暑い日が続いた。男に、おどかさされることはなくなったのに、村の人々の苦しみは消えなかった。森がなくなった後、なぜか村の田んぼには水がこなくなってしまう。田んぼも畑も水がたりず、乾いて硬くなってしまった。野菜もなかなか育たない。川を流れる水は雨がふると濁り、雨がやむとすぐに干上がってしまう。川の魚も、森にいた動物も姿を消した。村人たちは首をかしげた。

「なぜこうも、土は乾いてしまったんだろう」

「動物たちはどこへ行ってしまったんだろう」

誰にも、わからなかった。

ある日、二人の子どもが食べ物を探しに出かけていった。森のあった場所は乾いた土地になっていたので、木の実や果物を見つけることもできない。日差しをさえぎるものもない山で二人は汗を流して歩き回った。最後に、二人の子どもは岩陰岩陰に光る緑の芽を見つけた。

「こんなところに一本だけ、小さな木のあかちゃんあかちゃんがのこっていた！」

「かわいそうに、家族はみんないなくなっちゃったのにね。」

「よく生きていたね、こんなに暑くて乾いたところで。」

二人は苗木を掘り、大事に持ってかえった。「イマナカシナ」と名前をつけてやった。家の近くに苗木を植えて、毎日水を遠くから運んできてやった。二人の子どもといっしょに、イマナ

カシナは大きく育っていった。

木の周りには虫があつまり、虫があつまると次の年には鳥がやってくるようになった。すると、イマナカシナの周りには、あたらしい芽が生えてきた。村人はみな、森のあったところから木の苗木を探し出し、イマナカシナの周りに植えるようになった。

長い年月の後、村のまわりにはゆっくと森が育っていった。

「森が帰ってきた！」

みんなよろこんだ。二人の子どもは大人になり、自分の子どもたちに教えるようになった。一本の木を切ったら、十本の木を植えなさい。木が育つするには、長い年月がかかるのだから、と。

一方、悪い男はどうしてだろうか。男は乾いた山を畑に変え、畑にできない斜面では牛を飼おうと考えていた。でも、その考えはうまくいかなかった。男は暑くて乾いた山ですっかりいやになってしまった。男が村を見下ろすと、村の家々の周りには、かつてのようにみずみずしい緑の木がたくさん生えている。村人はその周りで、昔のように畑を耕している。男は村に降りていき、たのんだ。

「暑くてたまらん。水を飲ませてくれ。俺にも畑を分けてくれ」

村人は答えた。

「残念だけれど、こんどはだめだ。おまえは森の木をぜんぶ売ってしまった。一本の木を切ったら、十本の木を植えなくてはいけない。すべての木を植えてから、ここに戻ってきなさい」

男はすごすごと、来た道を引き返していった。

イマナカシナはついに、大きな木になった。二人の子どもはすっかり年をとったが、それでも村人に木を植えることを教えている。仕事のあと、二人はイマナカシナの涼しい木陰に座って、孫たちに囲まれる。

「なぜ、わたしたちは木を植えるの。」

子どもに聞かれると二人は答える。

「木は人間にとって便利だから、人間は木を切る。だから、ほうっておけば森はなくなる。

でも森がなくなれば、人間はとても困ることになるんだよ。昔、とても悪い男が村にきて、それを教えてくれたのさ」

さて、目を閉じて、イマナカシナの木陰を想像してごらん。日向はとても暑くて汗が出てくるけれど、木陰に入ると涼しくて、木の根元に座ると風の音がやさしく聞こえてくる。きみは木を植えたことがあるかな。木が大きくなるのには長い長い時間がかかる。だから、毎日水をあげても、ちっとも大きくならないように見えるかもしれないね。でも今日、きみが一本の木を植えたなら、年をとったときに、そんなふうにしてきな木陰に座ることができるようになるんだよ。